



今回は、飛騨古川フィールドワークの報告です。1年生2名が参加しました。

◇アニメの聖地として知られる飛騨古川。酒蔵や聖地、地元の高校を訪ねました！

日時：平成30年1月8日(月) 11:00~16:30

参加者：1年生2名 訪問先：渡辺酒造店、飛騨市観光課、吉城高校

◇地元の酒蔵で、アメリカ人の蔵人コディーさんに英語でインタビュー。

コディーさんはアメリカ合衆国ユタ州の出身。大学ではスポーツ科学を専攻。アメフト選手やスポーツトレーナー、理学療法士、大学准教授、様々なキャリアを経て来日。飛騨の地酒の魅力にひかれ、飛騨古川の渡辺酒造店で伝統の日本酒造りに挑む。日本酒の販路を広げる海外戦略に自ら乗り出し、最近ではテレビや新聞でも話題に。

本校1年生の男子2名（井戸陽太君・須田陽大君）が渡辺酒造を訪問、コディーさんの案内で酒蔵を見学し、インタビューにチャレンジしました。もちろんすべて英語です。



英語で酒蔵の案内。酒造りの技術と伝統の奥深さを学びました。温度管理にも細心の注意。



コディーさんオリジナルの酒。もちろん海外戦略の一環。夢は合衆国大統領に飲んでもらうこと。左写真中央の女性は、木元茜さん。得意の英語でコディーさんとともに海外戦略を担当。

◇ アニメ「君の名は。」の聖地へ。飛騨市観光課の横山理恵さんに聞きました。

飛騨古川といえば、一昨年夏に公開された映画「君の名は。」で一躍有名に。聖地巡礼で訪れるファンの巡礼は今も続き、最近ではアジアからの訪問客も多いそうです。私たちも町のあちこちでそうした方々に出会いました。

飛騨市役所観光課で海外戦略を担当する横山理恵さんに、聖地を案内していただきながら、インバウンド誘致の現状や今後の戦略についてうかがいました。聖地巡礼で訪れたアニメファンを真心を込めてもてなし、今度は飛騨市のファンになってもらう。そんな活動が浸透しつつあるそうです。



台湾や香港を中心にインバウンドを積極的に誘致。町の中には英語や中国語の通訳や案内も



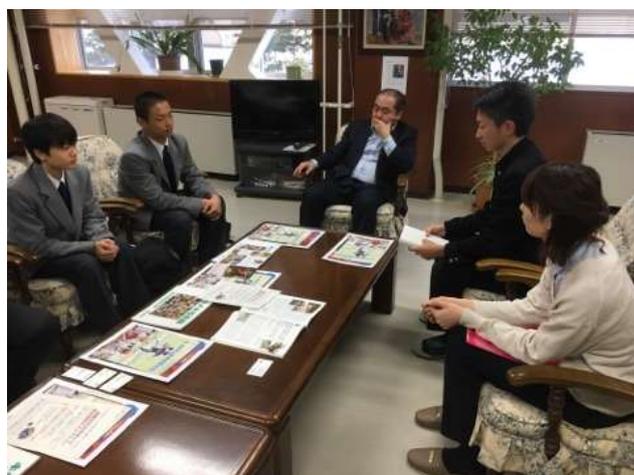
SNS利用。海外営業活動。おもてなしの心。英語での広報。積極的な海外戦略に驚きです。

◇ 最後に吉城高校へ。吉高地域キラメキプロジェクトについてうかがいました。

フィールドワークの最後に、飛騨市古川の伝統校、吉城高校を訪問しました。休日にもかかわらず、鈴木健校長先生、キャリア推進部の鈴木泰輔先生、キャリア教育サポーターの盤所杏子さん、そして3年生の坂下拓夢さんが、私たちを出迎えてくださいました。

お話のメインは、吉高地域キラメキ（YCK）プロジェクト。観光・教育・福祉・防災の各分野で、地域と連携した人材育成のためのプログラムです。先生方や地域の方々に支えられながら、坂下さんをリーダーとする生徒のみなさんが自分たちで町づくりを企画・運営していく報告には圧倒されました。

関高生ふたりも、自分たちが行っているSGHの活動について報告。インバウンド誘致のための研究を進める中でフィールドワークを行ったこと、1・2年生全員で「総合的学習の時間」を使って活動を進めていることなどに、関心を持っていただけました。



吉城高校の校長室。地域の課題に積極的に取り組む高校生の活動についてうかがいました。鈴木校長先生、坂下拓夢さん、盤所杏子さんからお話をうかがう関高生2名(右写真)。



雪景色の吉城高校(左写真)。

吉城高校の生徒のみなさんが企画した「三寺まいり 歴史探検」の案内(右写真)。1月15日に行われる伝統行事、「三寺まいり」にあわせたスタンプラリー形式のイベントです。

◇ 参加した生徒の感想

■ 私は今回のフィールドワークで自分に少し自信が持てるようになりました。渡辺酒造店で働くアメリカ人のコディーさんの説明を聞いている時は、わからない英単語ばかりで、聞き取りに苦労しました。しかし、英語で質問する時は、あらかじめ準備していったこともあり、スムーズに質問することができました。自分の英語でも相手に伝わるのがわかってうれしかったです。

市内フィールドワークでは、飛騨市観光課の横山理恵さんの案内で「君の名は。」の聖地巡礼コースをまわりました。海外戦略や様々なエピソードをうかがいながらのツアーは楽しかったです。

最後に、現地の吉城高校を訪問し、先生方や3年生の坂下さんとの交流会に参加しました。吉城高校が行っているYCKプロジェクトについてのお話をうかがいました。関高校のSGH活動とはまた違う方法で、興味深かったです。

■ 今回の研修では、それぞれの場所で学べる要素がたくさんありました。渡辺酒造店さんでは、アメリカ出身の蔵人コディーさんに、英語で酒蔵案内をしていただきました。普段なかなかふれることのできない、ネイティブの英語は、スピードが速く、聞き取るのが難しい部分もありましたが、その中でも内容が理解できた時には嬉しさがあり、また難しいと思うことについては、自分の英語はまだまだで、今後さらに英語を頑張っていこうという意欲につながりました。

英語でインタビューさせていただいたのも、普段勉強している英語を実際に発揮するよい機会だったと思います。また、渡辺酒造店海外戦略担当の木元茜さんや、飛騨市観光課の横山理恵さんのお話を聞いた際には、実際に対象としている国名や、それにはどのような理由があるのか、またそのためにどのような取り組みをしているのか具体的に教えていただきました。私たちも、SGH課題研究でインバウンド誘致について研究しています。今回のフィールドワークで、インバウンドに対しての知識や視点、考え方について、さらに深く学びました。

吉城高校では、地域活性化のための生徒の自主的な取り組みの話聞き、生徒のみなさんの真剣な思いを感じ、自分たちのSGH活動に対する取り組みの参考にしたいと思いました。以上のように、今回のフィールドワークで多くのことを学びました。

私たちがこれまで研究してきた「インバウンド誘致」に対しては、先進地域である飛騨古川を訪ねることにより、以前は漠然としたものでしかなかったイメージが具体的に固まり、今後の活動の大きな参考になったと思います。

また吉城高校で感じた取り組みに対する思いや主体性に関しては、今回、直接話をうかがった私たちが、自分たちの姿勢でクラスや学年の仲間に伝え広めていきたいと思っています。

